令和４年度　学校自己評価システムシート　（ さいたま市立 本太中学校 ）　　学校番号　２０５　　【様式】

目指す学校像	生徒・教職員一人ひとりの自己実現を図る学校

重点目標	
	１　自ら進んで考え、表現し、学びを活用できる生徒の育成　本太中ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥの推進 ２　自ら心身を鍛え、安全で健康的な生活ができる生徒の育成 ３　社会に開かれた教育課程の推進 ４　学校教育目標の具現化に取り組む教師の育成

※重点目標は４つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度			
	A	ほぼ達成	（８割以上）
	B	概ね達成	（６割以上）
	C	変化の兆し	（４割以上）
	D	不十分	（４割未満）

学校自己評価								学校運営協議会による評価
年度目標					年度評価			実施日令和　年　月　日
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	学力向上について〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査では、国語、数学ともに全国、市平均と比べ良好な結果である。 ○プロジェクターの設置、一人一台タブレットの実現など、ICT を活かした学び（ハード面）が充実してきている。 〈課題〉 ○全国学力・学習状況調査の結果を分析すると、総合的な学習の時間等で、自分で課題を立てて情報を集め整理し、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるが、全国平均と比べ、まだ数値を上げる余地がある。 ○生徒の個別最適な学びや協働的な学びをより充実させることが課題である。	・学力向上の土台となる学びの環境整備と授業改善	①ユニバーサルデザインを意識した教室環境の整備で、授業の分かりやすさをより高める。（黒板へのホワイトボードの設置と刺激量の調整） ②全国学力・学習状況調査の結果を基に、市教委による学力向上カウンセリング訪問で自校の課題を解決する。	①定期的な授業参観で、黒板の刺激量の調整や板書の構造化を指導し、常に最善の状況が整えている。 ②市教委による学力向上カウンセリング訪問を受け把握した自校の課題を解決する方策を検討し、実行できている。				
		・実社会で新しい価値を創造する力を育成できる「本太中 STEAMS TIME」の創出	①「本太中版 STEAMS TIME」で、実社会で新しい価値の創造につながるような課題を設定し、社会で活きる知識の習得、活用、探究を目指す。②複数の教科で共通の単元課題を設定し、生徒が教科横断的に知識を活用できるように促す。	①研究課題に係る STEAMS アンケートにおいて、実社会との関連の気付きに肯定的な回答をする生徒が 85%以上になる。 ②上記のアンケートで肯定的な回答をした生徒のうち、さらに課題解決方法を予想し取り組むと肯定的に答える生徒が 70%以上になる。				
2	安心・安全に関する取組〈現状〉 ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのが楽しい」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が、全国平均を上回っている。 ○新型コロナウイルスの影響で「勉強について不安を感じていた　計画的に学習を続けることができた　規則正しい生活を送っていた」ことに課題を持つ生徒が、全国平均と比べ少ないがいる。 〈課題〉 ○コロナ禍によるストレスや不透明感、生活の変化が生徒の心身に与える影響が大きいことから、今後も生徒一人ひとりの状況を的確に把握し、適切なタイミングで組織的に支援・相談していく体制、仕組みづくりが課題である。 ○校舎の老朽化や校庭の樹木の成長が進み、教職員の安全点検の結果をすぐに改善することが、困難である。	・生徒が安全な生活を過ごせる校内の施設設備の点検、校内環境美化の推進	①定期的な安全点検と危険個所への速やかな対応のため、市教委への報告、連絡、相談を密にする。 ②事務室と連携し予算委員会を実施し、全校で課題を明確にし、安全の観点から案件を順位付けし、逐次解決を図る。 ③校内の整理整頓と不要物の片付け。ゴミ等の分別のルール徹底を図る。	①安全確保の観点から修繕の順位付けを行い、確実に修繕を行なっている。 ②学校自己評価に係る生徒アンケートにおいて、環境美化に対し肯定的評価をする生徒の割合が 85%以上になる。				
		・生徒一人ひとりの細やかな教育支援・相談に向けた校内体制の充実	①各学期の初めに「心と生活のアンケート」を実施し生徒の不安やいじめに係る悩みをつかむ。また毎日の生活記録ノートや定期的ないじめアンケートで日常の生徒の悩みや不安へのアンテナを高くする。 ②生徒指導・教育相談委員会や学年生徒指導体制を活かし、組織的に問題解決を図る。	①学校自己評価に係る生徒アンケートにおいて「学校が楽しいか」「先生は相談に適切に対応しているか」に肯定的評価をする生徒の割合が 85%以上になる。 ②学校自己評価に係る教員アンケートにおいて、生徒指導や教育相談に関連する６項目において、肯定的評価をする教員の割合が 85%以上になる。				
3	開かれた学校づくりに関する取組〈現状〉 本校は昨年度、学校運営協議会を立ち上げている。昨年度は「今、生徒に付けさせたい力」について熟議を行い、生徒が豊かな心を持って、社会で自立できる力を地域全体で育てていくことを共有できた。 〈課題〉 ○学校運営協議会で共有した目指す生徒の姿を、家庭や地域に広め、地域に住み、地域に集う全ての人々と共有できるようにする。また、生徒に育てたい力についてさらに熟議を行い、その実現に向け、学校経営方針に活かしていく。 ○地域の方の学校施設利用について、継続的な行動に向けた新しい一歩を踏み出していく。	・目指す生徒像を学校運営協議会でより進めていくための会議運営の工夫。	①学校運営協議会の熟議を工夫し（生徒の参加等）教育活動に活かす（3 回） ②HP や学校だよりで教育活動や生徒の様子を効果的に伝える（毎月） ③地域ボランティア活動への生徒参加を呼びかける（各行事毎）	①学校自己評価に係る保護者アンケートで、学校の情報発信が積極的であると回答する割合が 80%以上になる。 ②学校自己評価に係る保護者アンケートで、学校が保護者や地域と協力し合って教育活動を進めていると回答する割合が 80%以上になる。				
		・学校施設の地域開放につながる取組に向けた「学校体育施設の有効活用推進事業」（スポーツ庁）の策定と行動	①「学校体育施設の有効活用推進事業」として浦和スポーツクラブやさいたま市教育委員会と学校体育施設の有効活用プランの策定に協力する。 ②策定したプランに基づき、浦和スポーツクラブ、さいたま市教育委員会と協働した取組を行う。	○新事業が立ち上がり、学校施設の新しい貸し出しを行い、今後に向けた課題を確認することができる。				
4	教職員の資質向上に関する取組〈現状〉 さいたま市教育委員会より、さいたま STEAMS 教育の研究指定を受け、学校課題「未来を見据え、よりよく生きる生徒の育成～実社会で新しい価値を生み出す力の育成～」の実現のため、校内研究推進委員会が中心となって、研究授業を行うなど、組織的に研鑽を重ねている。 〈課題〉 研究成果の発表ため、今年度の 11 月に研究発表会を予定している。本市のすべての学校で始まる「ＳＴＥＡＭＳ　ＴＩＭＥ」のたたき台になるような、生徒に実社会で創造的な力を発揮できる力を育成できる研究成果を示すことが課題である。	・さいたま STEAMS 教育の充実のため、組織的な校内研修の実施と研究成果の発表	①年間を通じ、さいたま STEAMS 教育の研究及び発表内容について、研究推進委員会を定期的に実施する。 ②１学期の計画訪問で、全教員が教科横断的な学習の研究授業を実施する。 ③さいたま市を対象とした２学期の研究発表会で、1 学年は SDGｓ、２学年は防災、３学年は宇宙をテーマとした STEAMS TIME を発表し成果を示す。 ④研究のテーマに即した生徒アンケートを 5 月、11 月、令和 5 年 2 月に行い、研究の進捗状況を確認する。	①学校自己評価に係る教職員アンケートで、校内研修の肯定的評価が 9 割以上になる。 ②さいたま STEAMS 教育に係る生徒アンケートで、ねらいの達成に係る質問に対する肯定的評価が 8 割以上になる。				